

# オホーツク海岸（止別～斜里）における 砂浜，海岸草原，海岸林の植生と鳥類相

小荷田 行男

330-0052 埼玉県さいたま市浦和区本太 4-5-1

## Birds and Vegetation of the Shari-Coast along the Sea of Okhotsuk

KONITA Yukio

4-5-1 Motobuto, Urawa-ku, Saitama 330-0052, Japan

### はじめに

北海道東部オホーツク海岸の止別・斜里間において 2001 年春から 2003/2004 年冬にかけて砂浜，海岸草原，海岸林の主な現存植生を記録し，そこに生息する鳥類の観察を行なった。また鳥類相については過去の調査との比較を行いその変遷を考察した。

### 調査地の概要

調査地はオホーツク海岸，JR 釧網本線止別駅から知床斜里駅までのオホーツク海岸の砂浜，海岸草原，海岸林に設定した。調査範囲を地域メッシュ・コード（JIS X0410-1976）の 3 次メッシュ・コード（約 1km × 約 1km）で表すと 15 メッシュとなる。また調査地は砂浜海岸，海岸草原，海岸林（天然林），植林地，河口（ウエンベツ川，斜里川），番小屋，市街地の 7 種類に分類される。

調査地の位置を図 1 に示す。なおこの地図は国

土地院発行の 1:25,000 地形図「清里（昭和 63 年改測）」，「斜里（昭和 63 年改測）」を使用し，3 次メッシュで示したものである。

### 調査地の主な現存植生

過去の植生調査としては，伊藤ら（1980），石丸ら（1997）がある。

オホーツク海岸，JR 釧網本線止別駅から知床斜里駅までの主な現存植生を表 1 に示す。記録された植物のうち環境庁（2000）による絶滅危惧植物は 3 種であり，その分布メッシュは表 2 のとおりである。また，海岸草原の *Cladonia* sp. 群落の種構成について，1m × 1m の連続 3 方形区を設定し，標高，傾斜角，群落高，低木層，草本層，コケ層の植被率，出現種数，出現種の種名と被度・群度，常在度を測定，記録した（表 3）。なお，イネ科植物の同定は長田（1989）と滝田（2001）を参考にした。

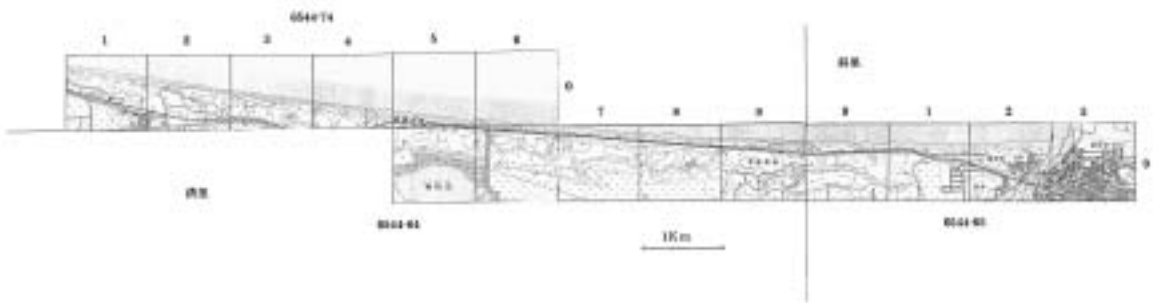


図 1. 調査地位置図（数字は地域メッシュ・コード）。

表 1. 調査地の主な現存植生 (調査日: 2002.10.11, 2003.5.10, 2003.7.5).

景観	目印となる地点	植生 (林冠高m)	メッシュ・コード
市街地	止別駅		6544-74-01
	踏切	シバ草原 イネ科・カヤツリグサ科草原 アカエゾマツ植林 バンクシアナーマツ植林 カシワ林 ハマナス草原 ハマニンニク草原 ハマナス草原 エゾノコリンゴ林 (2.5mH) ハマニンニク草原 エゾノコリンゴ林 (2.5mH) トライカヤナギ林 (1mH) エゾノコリンゴ林 (1mH) ハマニンニク草原 エゾノコリンゴ林 (2.5mH) ハマニンニク草原 ハマナス草原 ハマニンニク草原 エゾノコリンゴ林 (2mH) ハマナス草原 ハマニンニク草原 エゾノコリンゴ林 (2mH) ハマニンニク草原 エゾノコリンゴ林 (2.5mH) シラカンバ幼木林 (1.2mH) エゾノコリンゴ林 (2mH) ハマナス草原 スキ草原 ハマニンニク草原 ハマナス草原 ハマニンニク草原 ハマナス草原 <i>Cladonia</i> sp. 群落 ハマニンニク草原 <i>Cladonia</i> sp. 群落 ハマナス草原 ハマニンニク草原 トライカヤナギーハマニンニク林 (2.5mH) ハマニンニク草原 トライカヤナギーエゾヤナギ林 (2.5mH) ハマニンニク草原 ハマナス草原 ハマニガナーシロヨモギ群落 エゾノコウボウムギ群落 ハマニンニク群落 ハマニガナ群落 エゾノコウボウムギ群落 ハマニンニク草原 ハマニンニク草原 ハマナス草原 ハマニンニク草原 ハマナス草原 ハマニンニク草原 ハマナス草原 ウエンベツ川 エゾノコリンゴ林 (2mH) ハマニンニク草原 ハマナス草原 番小屋	6544-74-02
草原 ▲ 植林地 ▼ 海岸林	海岸草原		6544-74-03
			6544-74-04
▲ 砂浜海岸 ▼	番小屋		6544-74-05
	踏切		6544-64-96
▲ 海岸草原 ▼	ウエンベツ川		6544-64-97
	番小屋		6544-64-97



表 2. 調査地の絶滅危惧植物（環境庁（2000）による）.

科	種	ランク	メッシュ・コード	確認年月日	確認方法
ヤナギ	タライカヤナギ	VU	6544-74-02	2001.10.9	2003.5.10は花 他は葉
			6544-74-03	2002.8.7	
			6544-74-04	2002.10.11	
			6544-74-05	2003.5.10（花）	
			6544-64-97	2003.7.5	
キンボウゲ	キタミフクジュソウ	VU	6544-64-96	2002.5.1	花と葉
			6544-64-97		
シソ	ムシャリンドウ	EN	6544-64-98	2002.8.7	花
			6544-74-05	2003.7.5	
			6544-64-97		
			6544-65-91		

表 3. *Cladonia* sp. 群落の種組成（調査日：2003.10.16. 対象調査区：砂丘窪地 1 m×1 mの連続 3 方形区. メッシュ・コード：6544-74-04）.

	方形区番号			常在度	備考
	1	2	3		
標高 (m)	20	20	20		
方位 (°)	N	N	N		
傾斜角 (°)	0	0	0		
群落高 (cm)	60	60	45		
植被率 (%)	90	100	40		
低木層 (S)	10	0	4		
草本層 (H)	10	25	25		
コケ層 (M)	70	75	11		
<i>Cladonia</i> sp. (M)	4・4	5・4	2・2	V	ハナゴケの一種
<i>Elymus mollis</i> (H)	2・2	3・3	3・2	V	ハマニンニク
<i>Rosa rugosa</i> (S)	2・3	・	+	IV	ハマナス
<i>Festuca rubra</i> (H)	2・2	2・2	3・2	V	オオウシノケグサ
出現種数	4	3	3		

表 4. 調査日程と当日の天候.

	冬	春	夏	秋
2001	12/29*晴 12/31*快晴 1/2*雪	5/1曇	8/8快晴	10/9晴
2002		5/1晴一時にわか雨	8/7曇のち晴	10/11快晴
2003		5/10晴	7/5晴	10/16雨
2004		2/22*曇のち雪		

\*止別および斜里川河口部を中心とした海岸林と海岸草原.

## 鳥類相調査の実施

調査は 2001 年から 2004 年までの年末年始または 2 月、5 月上旬、7 月または 8 月、10 月中旬の冬、春、夏、秋の 1 日、年 4 回を基本として実施した。調査日とその日の天気を表 4 に示す。観察は冬を除き、止別を 8 時 45 分に出発し、斜里に 14 時から 15 時の間に到着した。冬は止別周辺を 9 時前後に、斜里川河口部を中心とした海岸林と海岸草原を 11 時前後に実施し、その他地域の調査は積雪のため行わなかった。天気は雨、雪など気象状況の悪い時も含まれる。2004 年 2 月 22 日は流氷が接岸していた。調査には 7 倍の双眼鏡を使用した。

## 鳥類相調査結果

オホーツク海岸止別・斜里間で 3 年間に 68 種の鳥類が観察された。各季節の観察記録を表 5～表 8 に示す。

近年全国的に減少しているヒバリ、アカモズ、シマアオジ（日本野鳥の会 1999）や、北海道内で減少しているエゾライチョウ、オオアカゲラ、ホオアカ（小荷田 2002）が観察された。

## オホーツク海岸止別・斜里間における鳥類相の変遷

オホーツク海岸止別・斜里間の砂浜、海岸草原、海岸林における鳥類の観察記録は、森（1979）、川道（1981）、大迫（1988）、川崎（1997）および本報告の 5 件がある。各文献はそれぞれ調査方法と観察場所、結果のまとめ方が同一ではないため、それぞれを以下のようにして比較した。

森（1979）の 1963-1978 の調査結果からは「1. トウツル沼～斜里川」の記述、および「斜里町管内の観察鳥類リスト」より春、夏、秋、冬の生息の有無を推定した。

川道（1981）の 1973-1980 の調査結果からは 4 月下旬から 11 月下旬の記述より、春、夏、秋の生息の有無を推定した。

大迫（1988）の 1988 の調査結果からは止別～斜里川の防潮保安林 1988 年 7 月の結果を利用した。

川崎（1997）の 1994-1997 の調査結果からは小清水原生花園沿岸～斜里漁港周辺の 1994 年 8 月～1997 年 2 月における観察結果で、海洋、湖沼、干潟、河川に生息する種を除き、砂浜、海岸草原、

海岸林を通過する種を含めた。

これらにより海洋、湖沼、干潟、河川に生息する種のほとんどが変遷検討の対象からは除かれている。以上の事を踏まえ、1963-1978、1973-1980、1988、1994-1997、2001-2004 の季節ごとの確認記録の有無を表 9 に示す。

なお、中川（私信）によると、今回の調査で確認できなかったコゲラやキビタキは最近でも調査地で観察されている。これは冬期の調査範囲が狭いことや、早朝・夜間の調査を行っていないことなど調査方法の違いによるものである。従って今回の調査結果から各種の生息の有無を判断するのは難しいが、ある程度の鳥類相の変遷は推測できると考えられる。

以下、過去に生息していた可能性が大きく、近年の調査で記録されていない種を中心に述べる。ミサゴは 1963-1978 以降、観察されていない。エゾライチョウはごく少数の個体が生息していると思われる。ヤマシギは 1973-1980 のみで近年は記録されていない。フクロウ科ではトラフズク、フクロウが 1980 以降、記録されていない。キツツキ科ではコゲラ、コアカゲラが近年記録されていない。モズ科ではアカモズ、オオモズが生息している可能性が大きい。ツグミ科ではトラツグミが 1994 以降、記録されていない。ほかにキビタキが 1990 以降、キバシリとアトリが 1980 以降、記録されていない。

またオホーツク海岸止別・斜里間には、前項に述べたようにエゾライチョウ、オオアカゲラ、アカモズ、ホオアカ、シマアオジなど北海道各地で減少している種が生息している。ここではわずかに約 1km 幅の地域に砂浜、海岸草原、海岸林といった異なる環境が隣接している。これらの多様な環境が 1960 年代から比較的良好に保たれていることが鳥類相の豊かさからも推測される。

## おわりに

オホーツク海岸止別・斜里間における本調査により以下のことが明らかになった

- 1) タライカヤナギ、キタミフクジュソウ、ムシャリンドウの 3 種の絶滅危惧植物が生息している（表 2）。
- 2) ハナゴケの一種（*Cladonia* sp.）が砂丘に群落

表 5. 2001-2003 年春期の観察記録.

種	調査年		
	2001	2002	2003
マガモ			○
トビ	○		○
ユリカモメ	○	○	○
セグロカモメ	○		
オオセグロカモメ	○	○	○
シロカモメ	○		○
ウミネコ	○		
キジバト		○	○
ヒバリ	○	○	○
ハクセキレイ	○	○	○
ヒヨドリ			○
モズ			○
アカモズ		○	○
コマドリ		○	
ノビタキ		○	
ウグイス		○	
メボソムシクイ		○	
センダイムシクイ		○	○
ハシブトガラ		○	○
コガラ			○
ゴジュウカラ		○	
ホオジロ			○
ホオアカ		○	
アオジ		○	○
カワラヒワ	○	○	○
ベニマシコ		○	○
ニューナイスズメ			○
スズメ		○	○
ハシボソガラス		○	○
ハシブトガラス	○	○	○
種数	10	20	22
平均種数		17.3±6.4	
総種数			30

表 6. 2001-2003 年夏期の観察記録.

種	調査年		
	2001	2002	2003
トビ	○	○	○
オジロワシ		○	
オオジシギ	○		
オオセグロカモメ	○	○	○
キジバト	○	○	○
アオバト			○
カッコウ			○
アマツバメ	○		
ヤマゲラ	○		
アカゲラ			○
ヒバリ	○		
ハクセキレイ	○	○	○
ヒヨドリ	○	○	○
モズ	○	○	○
アカモズ	○		
ノゴマ	○		○
ノビタキ	○	○	○
クロツグミ			○
アカハラ			○
エゾセンニュウ	○	○	○
シマセンニュウ	○	○	○
センダイムシクイ	○	○	○
エナガ		○	
ハシブトガラ	○	○	○
コガラ		○	
ホオジロ		○	○
ホオアカ			○
シマアオジ			○
アオジ		○	○
オオジュリン	○	○	
カワラヒワ	○	○	○
マヒワ		○	
ベニマシコ		○	○
スズメ		○	○
コムクドリ			○
ムクドリ			○
ハシボソガラス		○	○
ハシブトガラス			○
種数	19	22	28
平均種数		23.0±4.6	
総種数			38

表 7. 2001-2003 年秋期の観察記録.

種	調査年		
	2001	2002	2003
アオサギ			○
ヒシクイ		○	○
クロガモ			○
トビ	○	○	○
オジロワシ			○
エゾライチョウ	○		
ユリカモメ		○	
オオセグロカモメ	○	○	○
シロカモメ	○		○
ウミネコ		○	
キジバト			○
アカゲラ	○	○	
オオアカゲラ			○
ハクセキレイ		○	○
ヒヨドリ		○	
モズ		○	
ミソサザイ	○		
シロハラ			○
ハシブトガラ	○	○	○
コガラ		○	
ヒガラ	○		○
シジュウカラ			○
ゴジュウカラ	○	○	○
アオジ	○		○
オオジュリン	○		
カワラヒワ	○	○	○
ベニマシコ	○	○	○
スズメ	○	○	○
カケス	○	○	○
ハシボソガラス	○	○	○
ハシブトガラス	○	○	○
種 数	17	18	22
平均種数		19.0±2.6	
総種数		31	

表 8. 2001/2002-2003/2004 年冬期の観察記録.

種	調査年		
	2001/2	2002/3	2003/4
オオハクチョウ			○
マガモ	○	○	○
ホシハジロ			○
スズガモ			○
ホオジロガモ		○	
ウミアイサ			○
トビ			○
オジロワシ			○
オオワシ	○		
オオセグロカモメ	○	○	○
ワシカモメ			○
シロカモメ			○
アカゲラ		○	○
ハクセキレイ		○	○
ヒヨドリ		○	○
ツグミ			○
ククイタダキ		○	
ハシブトガラ	○	○	○
コガラ		○	
ヒガラ		○	
シジュウカラ			○
ゴジュウカラ			○
カワラヒワ		○	
ベニマシコ		○	○
ウソ	○		○
スズメ		○	○
カケス		○	○
ハシブトガラス	○	○	○
種 数	6	16	21
平均種数		14.3±7.6	
総種数		28	

表 9. オホーツク海岸止別・斜里間の砂浜, 海岸草原, 海岸林における鳥類相の変遷(海洋, 湖沼, 干潟, 河川に生息する種を除く).

科	種	春				夏				秋				冬			
		1963 -78	1973 -80	1994 -97	2001 -04	1963 -78	1973 -80	1988 夏	1994 -97	2001 -04	1963 -78	1973 -80	1994 -97	2001 -04	1963 -78	1994 -97	2001 -04
カモ	マガン			○								○					
	ヒシクイ	○		○				○		○		○	○				
	オオハクチョウ	○		○						○		○			○	○	○
タカ	コハクチョウ			○								○				○	
	ミサゴ					○					○						
	トビ	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○
	オジロワシ	○		○		○		○	○	○		○	○	○	○	○	○
	オオワシ								○			○			○	○	
	オオタカ							○				○			○		
	ハイタカ											○			○		
	ハイイロチュウヒ											○			○		
	ハヤブサ											○			○		
	チゴハヤブサ							○								○	
	コチョウゲンボウ															○	
ライチョウ	エゾライチョウ							○					○				
シギ	ヤマシギ		○					○				○					
	オオジシギ		○	○				○	○								
カモメ	ユリカモメ			○	○				○			○	○			○	
	セグロカモメ			○	○						○	○			○	○	
	オオセグロカモメ	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○
	ワシカモメ								○			○			○	○	
	シロカモメ	○		○	○						○	○	○	○	○	○	○
	カモメ			○								○			○		
	ウミネコ			○	○							○	○		○		
	ホイグリンカモメ											○					
	ミツユビカモメ	○		○								○			○	○	
	ヒメクビワカモメ											○			○		
	ゾウゲカモメ											○					
ハト	アジサシ			○					○			○					
	キジバト		○	○	○			○	○			○	○	○			
カッコウ	アオバト							○		○							
	カッコウ			○				○	○	○		○					
フクロウ	ツツドリ							○	○								
	トラフズク							○									
ヨタカ	コムミズク											○				○	
	フクロウ							○									
アマツバメ	ヨタカ							○									
	ハリオアマツバメ			○				○	○			○					
カワセミ	アマツバメ			○				○	○	○		○					
	ヤマセミ							○									
キツツキ	カワセミ							○									
	ヤマゲラ		○							○		○					
ヒバリ	アカゲラ	○	○			○	○	○		○	○	○		○	○		○
	オオアカゲラ		○					○			○			○			
	コアカゲラ	○	○			○	○	○			○	○			○	○	
	コゲラ	○	○			○					○	○			○		
ツバメ	ヒバリ		○	○	○			○	○	○		○				○	
	ショウドウツバメ			○					○			○					
セキレイ	ハクセキレイ			○	○			○	○	○		○	○		○	○	
	ビンズイ							○									
ヒヨドリ	タヒバリ			○								○					
	ヒヨドリ			○	○			○	○	○		○	○		○	○	
モズ	モズ			○	○			○	○			○	○		○		
	アカモズ			○				○	○	○							
	オオモズ			○											○		



表 9. 続き.

科	種	春				夏				秋				冬			
		1963 -78	1973 -80	1994 -97	2001 -04	1963 -78	1973 -80	1988 夏	1994 -97	2001 -04	1963 -78	1973 -80	1994 -97	2001 -04	1963 -78	1994 -97	2001 -04
レンジャク	キレンジャク		○														
ミソサザイ	ミソサザイ						○									○	
ツグミ	コマドリ				○												
	ノゴマ			○				○	○	○							
	ノビタキ		○	○	○		○	○	○	○			○	○			
	イソヒヨドリ			○													
	マミジロ						○										
	トラツグミ						○	○									
	クロツグミ						○			○							
	アカハラ		○				○	○		○							
	シロハラ															○	
	マミチヤジナイ												○				
	ツグミ			○								○	○			○	○
ウグイス	ウグイス		○		○		○					○					
	エゾセンニュウ		○	○			○	○	○	○		○					
	シマセンニュウ			○					○	○							
	マキノセンニュウ			○					○								
	オオヨシキリ							○									
	メボソムシクイ				○												
	エゾムシクイ							○									
	センダイムシクイ																
ヒタキ	ククイタダキ																○
	キビタキ		○				○	○					○				
	オオルリ						○										
	コサメビタキ																
エナガ	エナガ		○	○			○	○		○		○	○				○
シジュウカラ	ハシブトガラ		○	○	○		○	○	○	○		○	○	○		○	○
	コガラ		○	○	○		○		○			○	○	○		○	○
	ヒガラ			○			○	○				○	○	○		○	○
	シジュウカラ		○	○			○	○	○			○	○	○		○	○
コジュウカラ	コジュウカラ		○	○	○		○	○	○			○	○	○		○	○
キバシリ	キバシリ		○				○					○					
ホオジロ	シラガホオジロ																○
	ホオジロ		○		○		○			○							
	ホオアカ		○	○	○		○	○	○			○					
	シマアオジ							○									
	アオジ		○	○	○		○	○	○	○		○	○	○			
	オオジュリン									○				○			
	ツメナガホオジロ												○				○
	ユキホオジロ												○				○
アトリ	アトリ		○									○				○	
	カワラヒワ			○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○
	マヒワ				○					○		○				○	
	ベニヒワ		○							○					○	○	
	ベニマシコ		○	○	○		○	○	○			○	○	○			○
	ウソ																○
	シメ		○	○			○	○	○			○	○				○
ハタオリドリ	ニューナイスズメ		○	○	○		○	○	○			○					
	スズメ			○	○			○	○	○		○	○			○	○
ムクドリ	コムクドリ		○				○	○	○	○		○					
	ムクドリ		○	○			○		○	○		○	○				○
カラス	カケス		○									○	○	○		○	○
	ハシボソガラス		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
	ハシブトガラス		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
	ワタリガラス																○
	種数	15	35	50	29	9	43	45	38	38	18	34	54	29	15	46	23

を形成している(表3)。

3) 調査区域では68種の鳥類が観察された(表5～表8)。

4) 鳥類では近年、ミサゴ、ヤマシギ、トラフズク、フクロウ、コアカゲラ、トラツグミ、キバシリ、アトリが記録されていない(表9)。

5) 北海道各地で減少しているエゾライチョウ、オオアカゲラ、アカモズ、ホオアカ、シマアオジが生息しており、比較的良好な環境が1960年代から保たれている。

## 謝辞

知床博物館館長の中川元氏には本稿をまとめるにあたって有益な助言をいただいた。また植物の同定については同館学芸員の内田暁友氏にご教示頂いた。調査地へのアクセスには小曾根美樹氏にお世話になった。各氏に心からの感謝を申し上げます。

## 文献

石丸京子・小松輝行・武田義明. 1997. 北海道東部オホーツク海沿岸部に成立するエゾノコリンゴ林の群落分類学的研究. 植生学会誌 14: 37-45.

伊藤浩司・春木雅寛. 1980. 斜里海岸草原群落. 環境庁(編), 日本の重要な植物群落 北海道版. pp.93-98. 大蔵省, 東京.

大迫義人. 1988. 北海道東部地方斜里の防潮保安林とその周辺における夏期の鳥類相. Strix7: 231-237.

長田武正. 1993. 増補日本イネ科植物図譜. 778pp. 平凡社, 東京.

川崎弘. 1997. 網走市, 小清水町, 斜里町におけるオホーツク海沿岸部周辺の鳥類. 知床博物館研究報告 18: 19-34.

川道美枝子. 1981. オホーツク海岸の生物相とシマリスの食性知床博物館研究報告 3: 23-33.

環境庁(編). 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 ―レッドデータブック― 8 植物I(維管束植物). 660pp. 財団法人自然環境研究センター, 東京.

小荷田行男. 2002. 釧路湿原 塘路～茅沼における1983年～2001年の鳥類観察記録. 標茶町郷土館報告 14: 29-44.

財団法人日本野鳥の会(編). 1999. 自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 鳥類調査 中間報告書. 342pp. 環境庁自然保護局生物多様性センター, 山梨.

滝田謙讓. 2001. 北海道植物図譜. 1452pp. 自費出版, 釧路市.

森信也. 1979. 斜里町管内の鳥類相について. 知床博物館研究報告 1: 1-10.